

二か所に設置された端末による顔認証技術を使ったストーカー対策

群馬県立前橋高等学校：宇治野雅高 吉川泰生 横堀旬

課題・目的

課題 近年、ストーカー被害件数が**約二万件**と高まりして***1**、大きな事件になってしまうケースがある。これらの中には**証拠不十分**が原因となっているものが多い。***2**

目的 証拠集めの手助けとなって、**ストーカーのしづらい環境**を作ること

設置された端末の仕様

携帯型

据え置き型



撮影の指令を出し、位置情報を収集する。据え置き型とはスマホからのテザリングで連携。

顔検知や画像の保存、通知等、pythonやデータの蓄積を担当する。

通知

公式LINEを利用した通知

危険人物が背後または家に現れた

↓ LINE messaging API

通知

利点

利用者が振り返ることや家に行くことなく、**危険人物**に気づくことできること

対策

時間を空けて帰宅することや家族などの人に連絡すること

地図表示

前橋高校で遭遇した場合の地図



まとめ

このIoT機器を家に設置し、携帯型のものを持つことでストーカーの顔検知や通知、地図表示、家族への位置情報の共有をすることができる。これによりストーカー被害の抑制や警察が警告をする流れを円滑化することやストーカーを行いづらい環境をつくりをすすめることもできるだろう。今後は、家の前と外出先での写真や近隣住民と不審人物の写真の区別をする仕組みや危険人物との遭遇が少ない道を案内して家に帰るようなシステムを作りたい。そして実際にストーカー被害者になった人にこれがどのくらい役に立つかや実際どのようなことが必要になるのかを調査したい。

参考文献

Copilotを活用した

*1 1~6年ににおけるストーカー事案

R6_STDVRP_CA_kouhoushiryou.pdf

*2 警察から「動けない」と言わされたストーカー問題を解決したい

<https://yosuga-gr.com/private-investigation-stalking-crime/>